

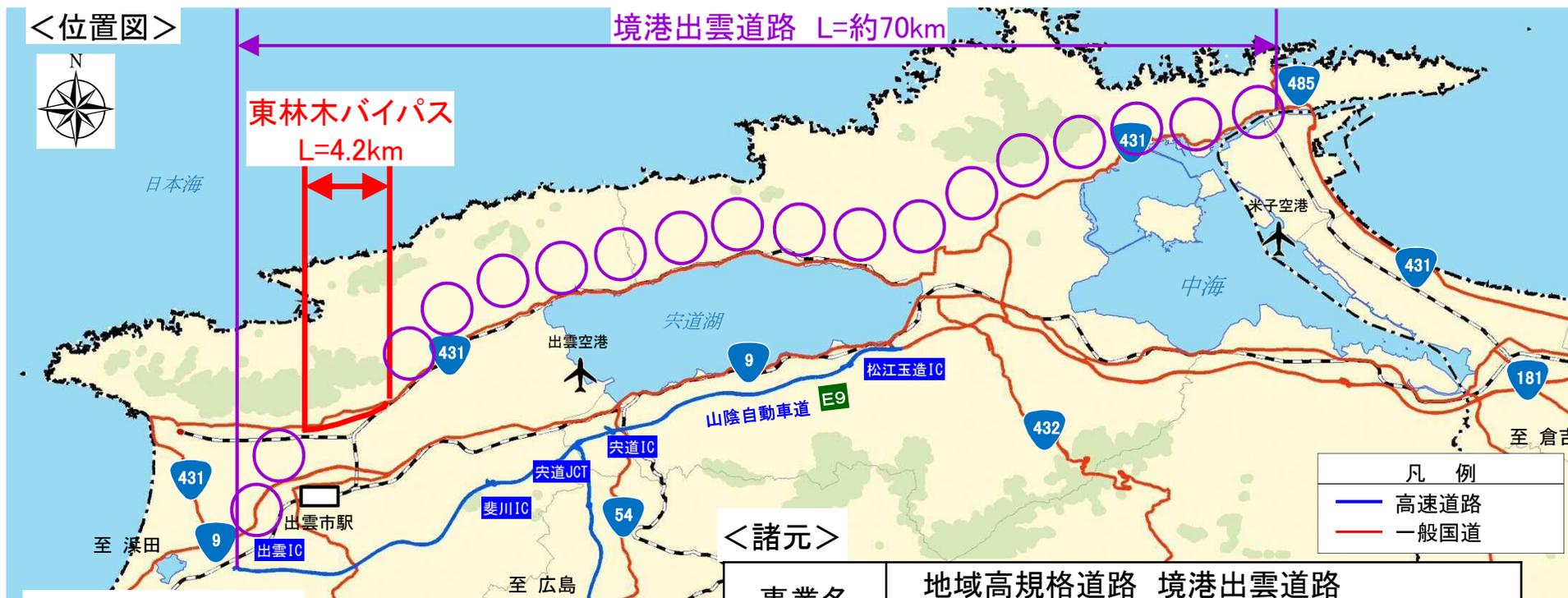
地域高規格道路 さかいみなといずもどうろ 境港出雲道路  
一般国道431号 ひがしはやしぎ 東林木バイパス  
(フォローアップ調査)

平成30年7月9日

# 1. 事業の概要

## 【事業の概要】

・一般国道431号東林木バイパスは、山陰道とともに宍道湖・中海圏域を循環し、圏域の一体化を図る地域高規格道路「境港出雲道路」の一部を構成する、出雲市矢尾町から出雲市東林木町に至る延長4.2kmのバイパス事業である。



## <主な事業の経緯>

平成5年度	事業化
平成9年度	用地着手
平成13年度	工事着手
平成17年3月	部分供用(1.2km)
平成26年3月	全線開通

## <諸元>

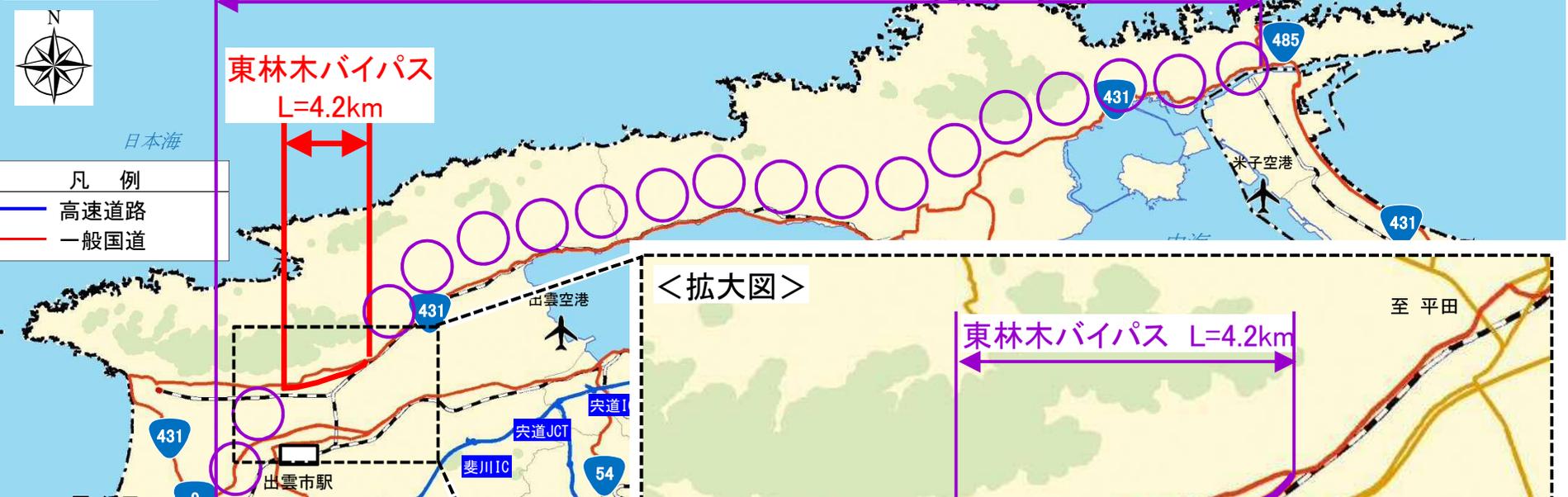
事業名	地域高規格道路 境港出雲道路 一般国道431号 東林木バイパス
事業区間	出雲市矢尾町～出雲市東林木町
計画延長	4.2km
構造規格	第3種第2級
設計速度	本線60km/h
車線数	暫定2車線
幅員	本線3.25m×2、歩道3.5m×2

## 2. 事業の目的

### 【事業の目的】

- ・ 地域高規格道路「境港出雲道路」の一部として、広域的なネットワークを形成するとともに、現道の線形不良及び交通混雑の解消を図ることを目的とする。

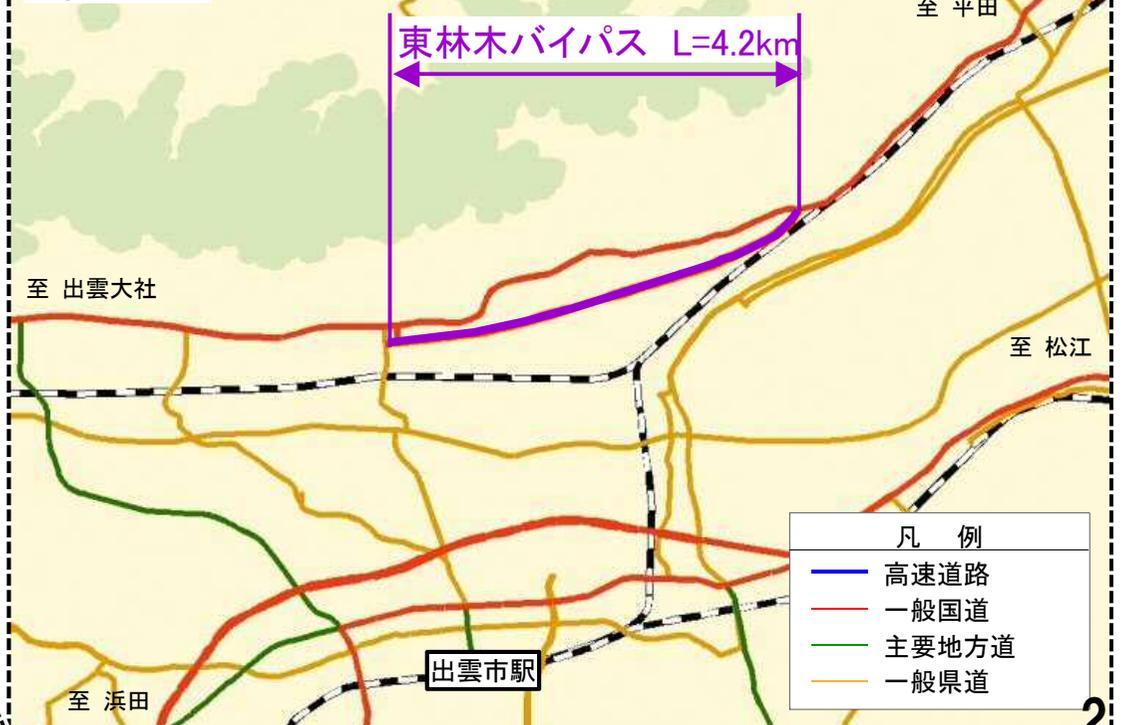
### <位置図>



### <航空写真>



### <拡大図>



### 3. 事業の経緯

H5年度	事業着手
H6年度	地域高規格道路の構造要件が定められる。(※) 「境港出雲道路」が候補路線に指定。
H10年度	『東林木バイパス』区間が整備区間に指定。
H15年度	地域高規格道路の構造要件が緩和される。(※)
H17年度	副道(東側1.2km)開通
H19年度(再評価)	事業見直しを条件として継続を認められる。 《再評価指摘事項要旨》 ・ 島根県が厳しい財政状況であることを踏まえ、高速道路と同じように高速走行できる地域高規格道路「境港出雲道路」については、全体計画及び東林木バイパス区間の工事計画を見直すこと。
H20年度	事業を見直し、盛土構造を平面構造とすることでコスト縮減(200億円→160億円)した。
H21年度(再評価)	H19再評価の指摘事項に対する対応方針を説明。(※※)
H25年度	全線(4.2km)完成(2車線)

## 4. 地域高規格道路の構造要件緩和について（※）

- 平成6年  
建設省(当時)より、地域高規格道路の構造要件が定められる。
- 平成15年  
地域独自の道路整備が可能となるローカルルールを導入や公共事業の実施に当たって更なるコスト縮減等が求められていることを考慮し、地域高規格道路の構造要件について、見直し(緩和)が行われた。

	H6構造要件	H15構造要件
サービス速度	60～80km/h以上	概ね60km/hでも可
車線数	4車以上	2車以上(適宜追い越し区間設置)
交差方法	原則、立体交差	平面交差も可能 (サービス速度が概ね60km/h確保可能の場合)
現道活用	要件なし	現道活用可 (現道の一部区間を活用して路線全体として概ね60km/hのサービス速度を確保)

## 5. H19再評価の指摘事項に対する対応方針（※※） 【H21再評価委員会における報告事項】

### [見直しの考え方]

- …厳しい県の財政状況を考慮し高速道路のような高速走行までは求めず、交差点の箇所数を少なくするなどスムーズな走行性を確保した上で、地域の住民や観光客が使いやすく、投資効果を早期に発現できる計画に見直すこととする。

### [「境港出雲道路」全体計画について]

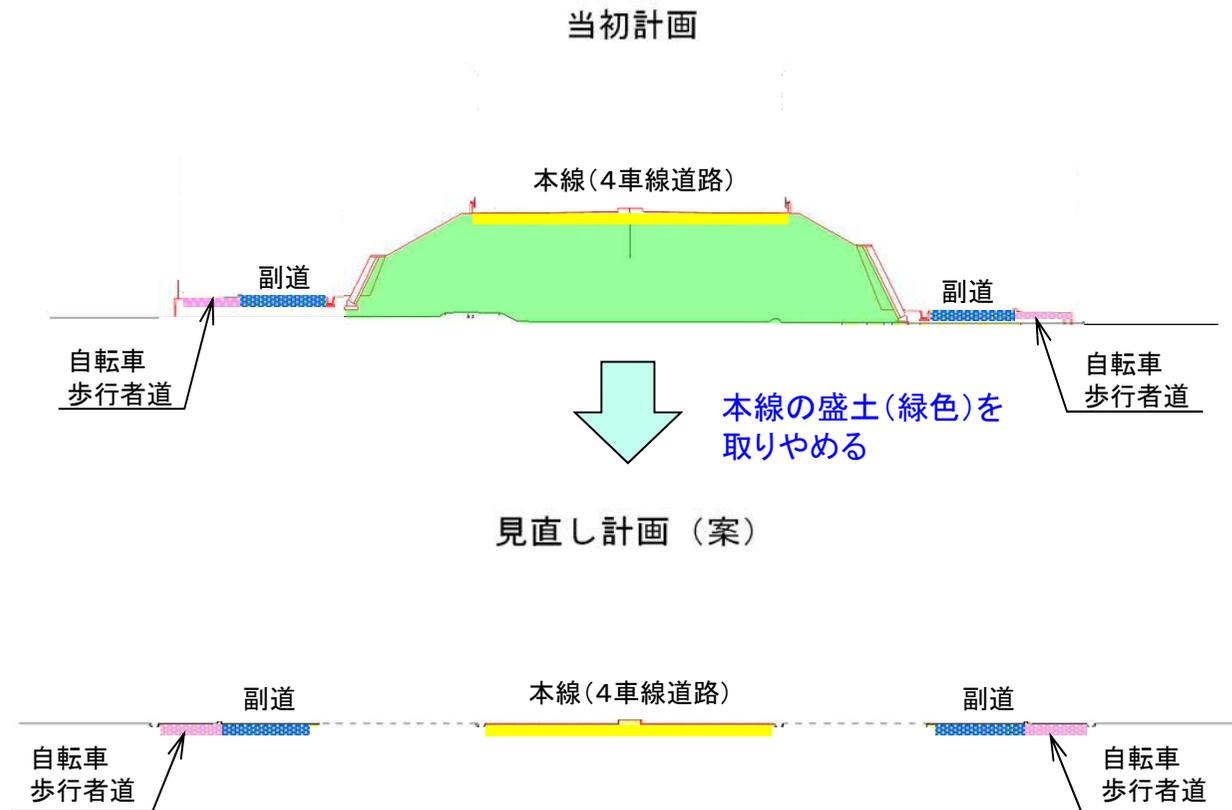
- 地域高規格道路の構造要件緩和に基づき、高速道路のように80km/hで走行できる計画からサービス速度を概ね60km/hとする計画に見直す。
- 高架橋や盛土が連続する高速道路的な構造を改め、沿道開発が進むよう極力平面構造とする。
- バイパスによる整備計画から、現道改良とバイパスを組み合わせる計画に見直し、コスト縮減を図るとともに、ネットワークの早期完成を目指す。
- 各区間を整備する優先順位は、今後推計する将来交通量や実際の走行速度の実態等を勘案して検討を進める。

## 5. H19再評価の指摘事項に対する対応方針（※※） 【H21再評価委員会における報告事項】

### [東林木バイパス工事について]

○道路構造は、「盛土」を取りやめ、原則「平面」とする。

- コスト縮減額：▲40億円（最終完成時200億円→160億円）



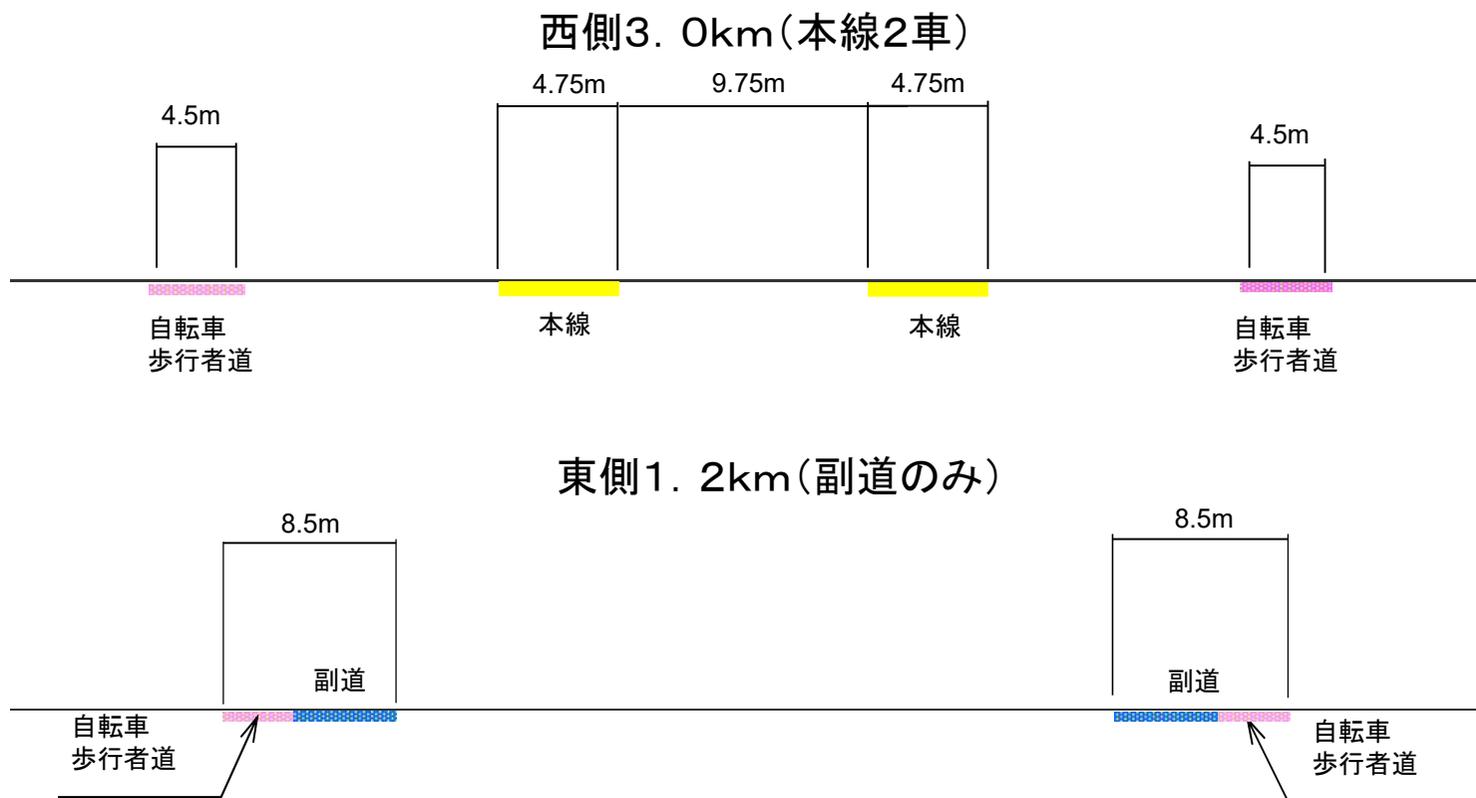
## 5. H19再評価の指摘事項に対する対応方針（※※） 【H21再評価委員会における報告事項】

### [東林木バイパス工事について]

○事業の進め方は、段階的に施工する。

- ・ まずは、2車線（副道を活用）で平成25年度完成を目途に進め、その後、利用状況を踏まえ順次整備する。

### 【現在の供用形態】



## 6. 事業の効果

### 【事業効果一覧】

効果	効果の概要
交通の分散による混雑緩和 圏域の一体化への効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・現道(国道431号)の交通量は整備前と比べて約2割減少し、交通が分散</li><li>・現道とバイパスと合わせた断面交通量は最大で約3割増加し、広域ネットワーク形成を支援</li></ul>
主要渋滞箇所の渋滞緩和	<ul style="list-style-type: none"><li>・交通の分散により、主要渋滞箇所である荻杼交差点の渋滞長は最大約600m減少</li></ul>
道路利用者の安全性が向上	<ul style="list-style-type: none"><li>・現道区間で4か所あった急カーブ(<math>R &lt; 150</math>)は、バイパスではすべて解消(最小曲線半径<math>R = 420</math>)し、道路利用者の安全性向上に寄与</li></ul>
救急医療施設への搬送環境の向上 搬送時の負担軽減	<ul style="list-style-type: none"><li>・平田地域から島根県立中央病院までの搬送環境が向上</li><li>・バイパスは急カーブ(<math>R &lt; 150</math>)がなく、患者の負担、救急隊員の負担の軽減にも寄与</li></ul>
観光地へのアクセス性向上	<ul style="list-style-type: none"><li>・国道431号沿線には「出雲大社」をはじめとした主要観光施設が豊富にあり、バイパスの整備は観光地へのアクセス性向上や時間短縮に寄与</li></ul>

# 6. 事業の効果（1）

## 交通の分散による混雑緩和・圏域の一体化への効果

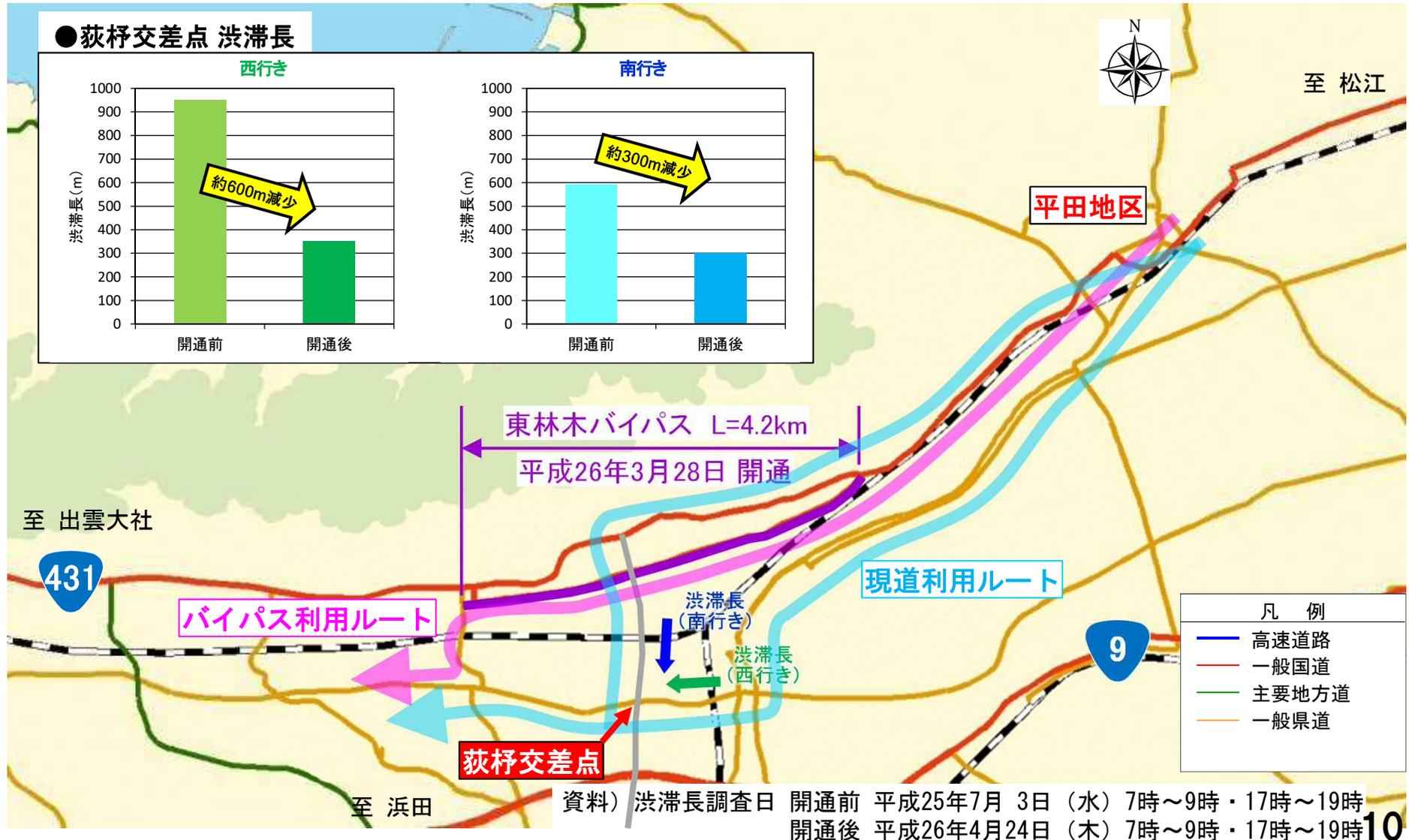
- ・現道(国道431号)の交通量は整備前と比べて約2割減少し、交通の分散が図られている。
- ・東林木バイパスの整備により、現道とバイパスと合わせた断面交通量は最大で約3割増加しており、広域ネットワークの形成を支援している。



## 6. 事業の効果（2）

### 主要渋滞箇所の渋滞緩和

- 東林木バイパスの整備によって、交通の分散が図られたことにより、主要渋滞箇所である荻椀交差点の渋滞長は最大約600m減少。

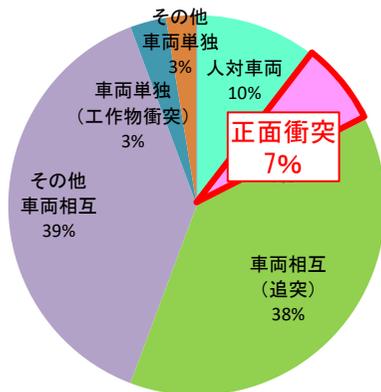


# 6. 事業の効果 (3)

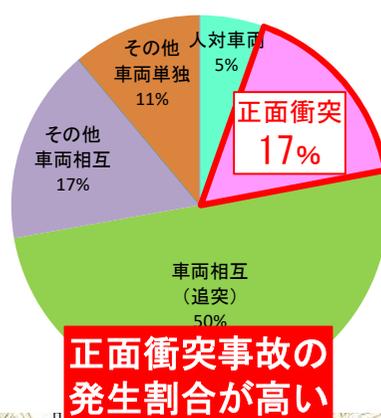
## 道路利用者の安全性が向上

- 東林木バイパスと並行する国道431号には、R=150未満の急カーブ箇所が4か所あり、急カーブ付近での正面衝突事故や駐停車中車両への追突事故が発生している。また、当該区間では正面衝突が全体の約2割を占め、島根県全体と比較してその割合は高くなっている。
- 東林木バイパスの曲線半径は最小地点でR=420であり、急カーブが存在せず、道路利用者の安全性向上に寄与している。

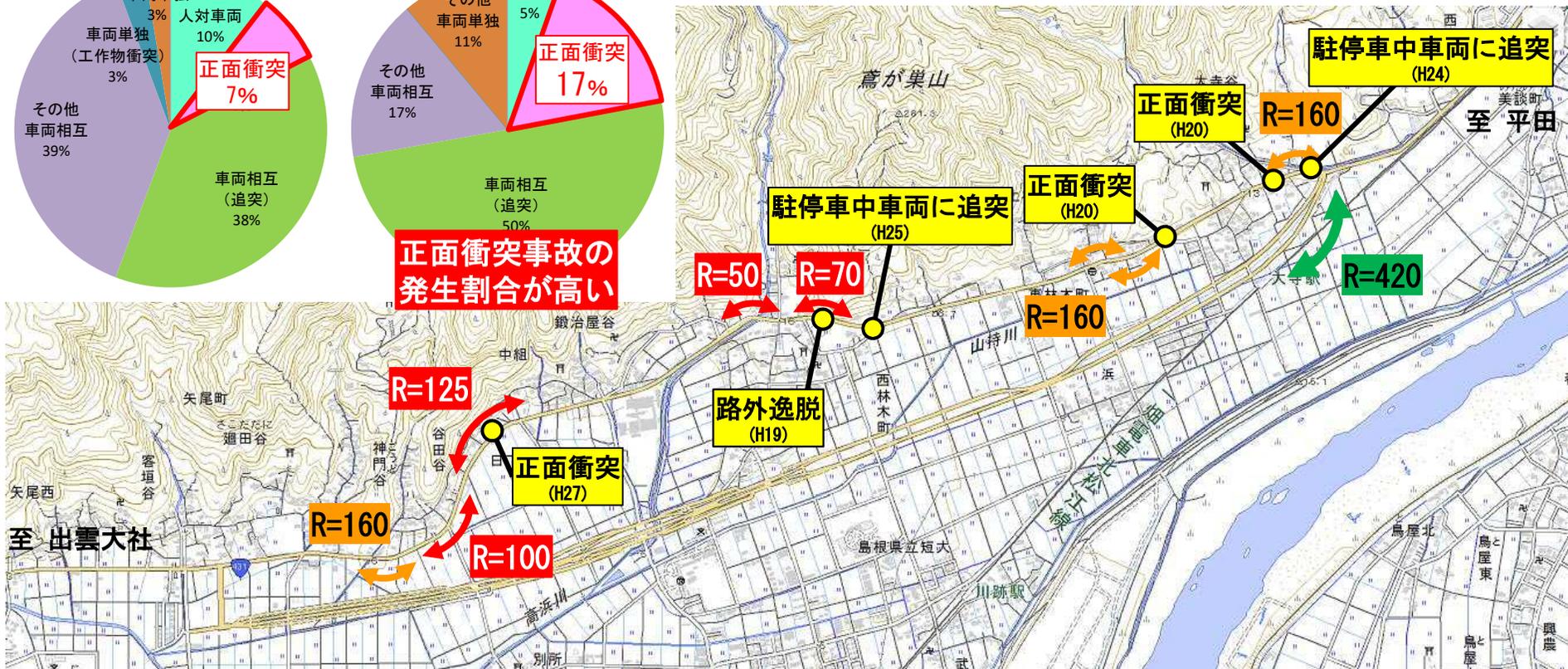
島根県 事故類型  
(10年間で合計6,174件)



現道 事故類型  
(10年間で合計18件)



凡例	
●	事故発生箇所
R=150	急カーブ (R<150)

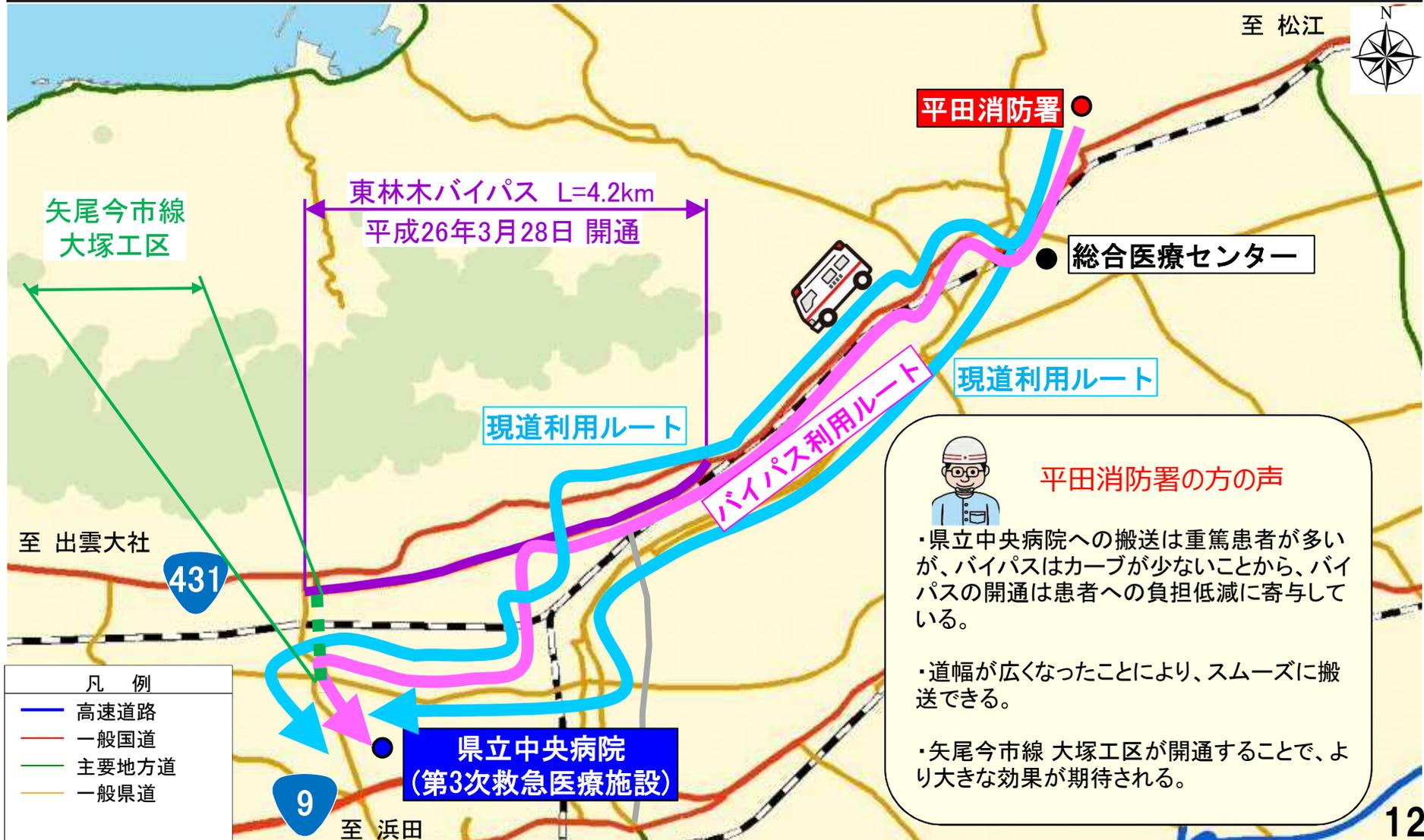


資料) 道路台帳、イタルダデータ (H18~H27)

### 3. 事業の効果（4）

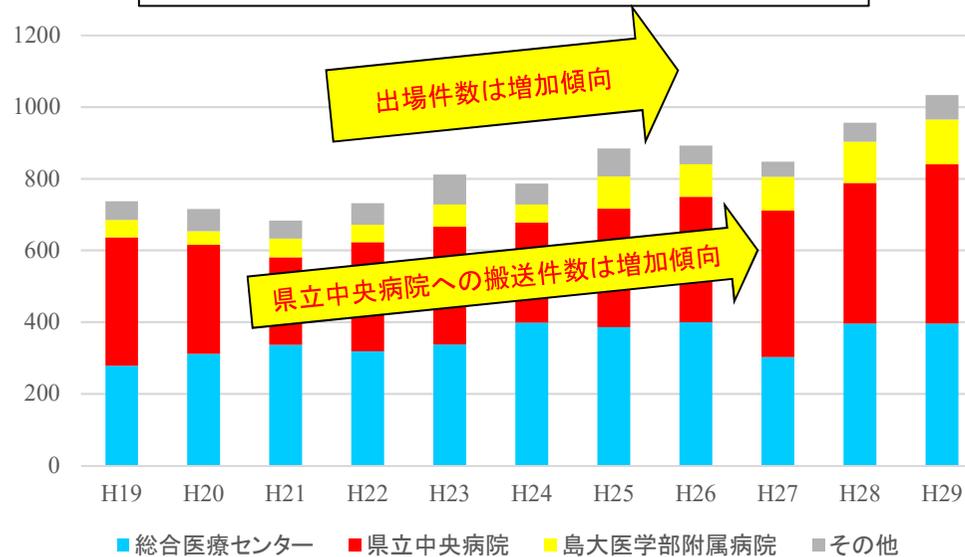
#### 救急医療施設への搬送環境の向上、搬送時の負担軽減

- ・東林木バイパスの整備によって、アクセス性が向上しており、平田地域から島根県立中央病院までの搬送環境の向上を支援している。
- ・またバイパスは急カーブ(R<150)がなく、患者の負担、救急隊員の負担の軽減にも寄与している。

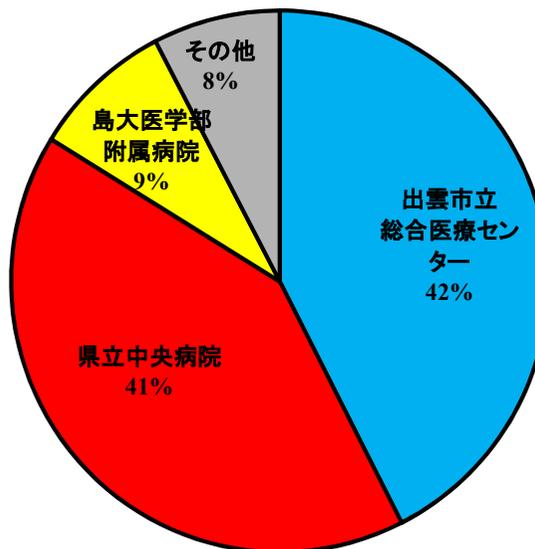


### 3. 事業の効果（4）

平田地域からの救急出場件数（H19～H29）



平田地域からの搬送先の割合（H19～H29合計）

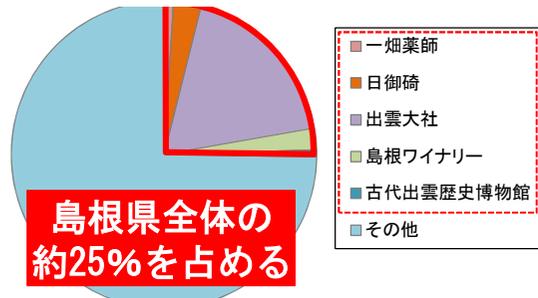


## 6. 事業の効果（5）

### 観光地へのアクセス性向上

- ・東林木バイパスを含む一般国道431号沿線には、「出雲大社」をはじめとした山陰文化観光圏内の主要観光施設が豊富にあり、その観光入込客数は島根県全体の約25%を占める。
- ・東林木バイパスの整備は、観光地へのアクセス性向上や所要時間短縮に寄与し、観光地の地域振興を支援する。

#### ●島根県観光入込客数(H29)



資料) 島根県観光動態調査結果 (H29)



## 7. 関連事業の状況

○ (一) 矢尾今市線 大塚工区を実施中であり、東林木バイパスと接続することにより、以下の効果が期待される。

- ・ 出雲市中心部と旧平田市の連携強化
- ・ 出雲地域の観光基盤、生活基盤の一体化
- ・ 緊急輸送道路としての機能向上
- ・ 県立中央病院へのアクセス向上による救急医療体制の強化

### 矢尾今市線 大塚工区について

一般県道 矢尾今市線は、出雲市矢尾町の国道431号から出雲市今市町の国道184号(旧国道9号)へ至る延長2.7kmの道路であり、現在、県道 斐川出雲大社線から東林木バイパスまでの940m区間を整備している。

